

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	丹陽福祉会 みどり保育園	施設種別	保育園 (旧体系 : )
評価機関名	京都福祉ネットワーク「一期一会」		

令和 7 年 1 2 月 1 0 日

<p style="text-align: center;">総 評</p>	<p>みどり保育園の設置法人である丹陽福祉会は、キリスト教の精神のもと、戦後の混乱期における孤児の救済活動から始まり、昭和24年4月に児童福祉施設として認可を受けました。その後、地域の父母の切実な願いを受け、昭和46年4月に社会福祉法人として認可を得て保育園を開設し、令和2年4月には幼保連携型認定こども園へと移行しています。困難な時代から物資の豊かな時代へと変化する中でも、みどり保育園ではキリスト教の教えを大切にしながら保育を続けています。子ども一人ひとりが、生まれながらに与えられた命の尊さを感じ、他者を思いやり、心豊かに伸びていく力を育むことを基本としています。</p> <p>みどり保育園は、福知山市の新しい開発地域である旭が丘において、丘児童センターと協働しながら地域の子育て支援の拠点として積極的に活動しており、地域にしっかりと根差した歴史ある保育園です。</p> <p>広い園庭には、園の歴史を見守ってきた実のなる木々や畑があり、子どもたちは野菜の栽培にも親しんでいます。秋の収穫祭では、畑で育てたサツマイモで芋汁を作り、保護者の方と一緒に味わう行事が長く引き継がれています。</p> <p>現在の課題として、「職員は毎年採用できているものの、園全体として中堅層が育ちにくい点がある」との声がありました。園では職員一人ひとりにキャリアパスを設定し、その進捗に応じた評価基準も設けています。今後は、園としての将来像を共有し、キャリアパスに基づく育成計画をより具体的に進めていくことで、職員層のバランスが整い、園全体の力がより一層高まっていくことが期待されます。</p> <p>今回の第三者評価では、今の若い職員が中堅として頼もしく成長し、みどり保育園がさらに発展されている姿を大いに期待しています。</p>
<p>特に良かった点(※)</p>	<p>I-2-(1)①事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p>事業経営については、毎月税理士法人に入ってもらい、チェックや協議を重ねています。現在の保育を取り巻く環境や地域の情報を常に把握し、みどり保育園としての経営状況について意見交換や指導を受けながら、適切に対応しています。また、地域の丘子育てセンターと連携し、地域の状況確認や取り組みを協働で行っています。</p> <p>II-4-(1)① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p>毎年開催している「夏祭り」では、自治会や子ども会の協力を得て園庭に屋台を出し、地域の方々を招待して園児との交流の機会としています。地域の方からの子育て相談にも応じるなど、地域貢献</p>

	<p>活動に熱心に取り組んでいます。その他にも、高齢者施設を訪問して劇を披露したり、丘児童センターで行われる地域の文化祭に絵画を出展したりと、地域と関わる機会を積極的に設けています。</p> <p>A-1-(2)環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開 園舎の拡張を経て、子ども一人ひとりの発達過程に応じてゆったりとくつろげる環境を整えるとともに、どの部屋からも園庭を望み四季折々の風景を感じる中で、自然の移ろいを通して豊かな感性を育んでいます。</p> <p>また、リトミック活動に力を入れており、0歳から毎日継続して取り組む中で、子ども一人ひとりの感性や表現力、集中力を引き出すとともに、異年齢での関わりを通して思いやりや協調性が育まれています。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p>I-3-(1)①中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p>役員会において、保育園の研修計画や中堅職員の育成について検討が行われており、地域の動向を踏まえながら学童保育など新たな保育事業の展開も模索しています。一方で、中・長期計画として可視化された資料は確認できませんでした。園長の中には、今後の保育園の発展に向けた多くの未来像がしっかりと描かれている感じが感じられました。</p> <p>中・長期計画を文書として策定することで、園の今後の方向性がより明確になり、職員の意欲や目標意識の向上にもつながると考えられます。中堅職員の育成や将来の園運営を見据え、今一度、中・長期計画の意義を再確認し具体的な形として整理されることを期待します。</p> <p>Ⅲ-1-(1)②子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。</p> <p>子どものプライバシー保護については一定のルールが設けられており、必要に応じてパーテーションを活用したり、プール遊び後の屋外シャワーにはテントを設営して外部から見えないようにするなどの配慮がなされています。一方で、これらの対応について明文化された規程等は確認できませんでした。</p> <p>また、その他のマニュアルや規程類においても、必要な項目が十分に網羅されていなかったり、最新版に更新されていないものが見受けられました。日常の保育の中で実践されている適切な対応を文書として整理し、マニュアルや規程に反映させることで、より明確で一貫した体制となることが期待されます。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

## 【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	みどり保育園
施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人きょうと福祉ネットワーク一期一会
訪問調査日	2025/8/29

**I 福祉サービスの基本方針と組織**

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a

[自由記述欄]

1) 法人の理念は、キリスト教の聖書による人間観を基本として、保育は児童の権利条約に則って保育することとしている。それをわかりやすく解釈し明文化している。理念に基づき、基本方針や保育目標を掲げ、職員には随時会議で、保護者には入所時に説明を行っている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
		3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	a

[自由記述欄]

2) 京都府保育協会や福知山市民間保育協議会で、保育に関する動向を把握している。また、地域の動向については、地域の子育てセンターを通じて地域の状況確認を行っている。  
3) 経営状況は税理士法人(ゆびすい)の確認のもと把握を行い、指導や意見交換を行いながら課題解決に向けて取り組んでいる。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	b
		5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	a
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	a
		7	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a	a

[自由記述欄]

4) 役員会で園の研修計画や中堅職員の育成について検討している。また地域動向を踏まえ、学童保育などの保育事業の新たな展開を模索している。しかし、中長期計画として可視化できる形で公表していない。  
5) 可視化できる中長期計画はないが、中長期を踏まえた単年度計画が策定されている。  
6) 事業計画は、毎月の職員会議やドキュメンテーション会議などで振り返り評価を行っている。  
7) 事業計画は、保護者にわかりやすい資料を作成し、クラス懇談会や保護者会等で説明を行っている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	a
		9	② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	a

[自由記述欄]

8) 定期的に担当者会議を行い、保育の質に向けてチェックを行っている。保育課程に係る振り返りは職員会議で行っている。  
9) ドキュメンテーション会議等で出た課題については、会議の中で詳細を確認した上で、取り組むべき方向性を示している。

**II 組織の運営管理**

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	a
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	a
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a

[自由記述欄]

10) 園長は、職員会議や研修時に出席をして助言や指導を行っている。また広報誌「みどり保育園だより」等を通して役割や責任を表明している。有事の対応や苦情受付等も文書化して周知を図っている。  
 11) 遵守すべき法令については、京都府保育協会等から情報収集し、職員には会議等で周知をしている。保育の法令や法律ガイドを事務室に整備し、いつでも閲覧ができる。特に不適切保育については、職員と話し合い理解を深める取り組みをしている。  
 12) 園長は職員会議で課題を把握して、改善に向けた具体的な取り組みの指導を行っている。保育の質の向上を常に意識し、外部研修を受講する機会を常に設けている。  
 13) 保育の質向上のために、適宜必要な物品を購入している。また労働環境を整備するためにフリーの職員を配置し、急な休みの相談に応じるなど働きやすい環境に努めている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	a
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	a
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	a

[自由記述欄]

14) 人材確保に向けては、就職フェアや就活サイトを活用している。定着に関しては、キャリアパスに基づく研修体系を整備している。  
 15) 法人としてのキャリアパス制度に則った人事基準が定められ、人事考課やOJTの仕組みがある。期待できる職員像に関しては、「一人でリーダーができる」ことを目標にして共有化を図っている。  
 16) 働きやすい職場づくりのために「ストレスチェック」や「ハラスメント窓口」を設置している。ドキュメンテーション会議等の場で人間関係の硬質、ベテラン保育士から新人保育士への指導など、保育内容を発表する形式で行っている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	a
		18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	a
		19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a
	II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	a

[自由記述欄]

17) 職員一人ひとりに目標を設定して、人事考課の中で面談を実施し評価を行っている。日々の保育の中でも進捗や確認を行い、指導をしている。  
 18) キャリアパス制度に基づく研修体系があり、順次受講できる個別計画がある。研修の見直しは、面談の中で職員と個別に行っている。保育協会等や外部研修・内部研修の園全体の年間計画も策定されている。  
 19) 法人のキャリアアップ研修を受講できるようにしている。保育協会の研修（新人研修・中堅研修・ディスカッション研修等）を受講できるよう配慮している。職員は年1回は受講できる機会を設けている。  
 20) 実習生等受け入れ体制のマニュアル等の整備がある。但し、昨年と今年の受け入れはない。指導者に関する研修は主任が受講している。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	a
		22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	a
[自由記述欄]					
21) 丹陽福祉会として財務諸表はワムネットで公開されている。第三者評価を受診し公開されている。地域には園だよりを配布している。 22) 法人で経理や取引等に関する経理規定があり明確化されている、毎月、税理士法人による指導を受けている。					

評価分類	評価項目	通番	評価細目		評価結果	
					自己評価	第三者評価
Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献	Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	①	子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	a
		24	②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	a
	Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	①	保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a
	Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	①	保育所が有する機能を地域に還元している。	b	b
		27	②	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	a

[自由記述欄]

23) 高齢者施設を訪問して劇を披露したり、地域の児童センターの文化祭へ絵画を出展する等、地域との交流を大切にしている。また、恒例になっている夏祭りでは地域の方々に招待状を送り、参加を呼びかけ交流している。

24) 高校生向けのインターンを受入れている。受入れのマニュアルは、不十分な部分もあり整備した。

25) 市役所、児童発達支援センター、児童相談所、児童センターとは、障害を持っている子どもや、障害の認定を受けていなくても発達に問題を抱えていると感じる子どもについては連携を密にしている。また、虐待等権利侵害が疑われる場合は市役所と連携し、定期的な意見交換の場を設けている。

26) 夏祭りでは、園庭で地域の方々との交流を図っている。常時、子育て等の相談窓口を設置し、相談を受け付けている。災害時用の備蓄（食料や水のほか、バッテリーや簡易トイレなど）がある旨を児童センターに伝え、必要時活用してもらえるようにしている。しかし、地域に対する講演会や研修会等の開催は行えていない。

27) 児童センターでは定期的に子育て講演会が開催されるので、参加している。小中学校の教職員や地域自治会、子供会、民生児童委員、老人会の方々の参加もあり、意見交換を行っている。

### Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目		評価結果	
					自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	①	子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a
		29	②	子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a	b
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	①	利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a
		31	②	保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a
		32	③	保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	a

[自由記述欄]

28) 聖書に基づく精神や保育マニュアル、保育課程に明示された基本姿勢をもとに取り組みを行い、職員会議やドキュメンテーション会議で振り返りを行っている。保護者には入園説明会や家庭訪問時に方針を説明している。年に1回児童センターで行われる人権研修に職員が参加している。

29) 保育士として守秘義務は堅持し、権利擁護に関しても配慮している。子どものプライバシー保護について、ルールはあり、着替え時等はパーティションを使う配慮をしているが、明文化したものが無い。

30) ホームページでは写真を多用し、わかりやすい情報を提供している。市役所にはパンフレットや要覧を置いている。見学の希望者は1年中あり、その都度対応している。

31) 要覧や重要事項説明書で園の機能や保育内容について知らせている。入園説明会や保護者懇談会でも資料や写真を使って可視化して説明を行っている。配慮が必要な保護者への対応は保護者支援の研修を受ける等して学んでいる。]

32) 退園や転園については保護者の意向を踏まえ、引継書を作成している。利用終了後の相談窓口は掲示し、口頭でも伝えている。卒園した子どもが学校に行きにくい等の相談を兄弟児の送迎時に受けることもあり、対応している。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	a
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	a
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a

[自由記述欄]

33) 苦情解決の仕組みがあり、周知されている。ご意見ポストを玄関に設置している。苦情や相談があれば「苦情ノート」に問題発生から解決に至るまでを記録し、職員間で共有しサービス向上に役立てている。すべて公表できているわけではないが、申し出た保護者へはフィードバックしている。  
 34) 職員誰にでも相談できるようになっており、園長・副園長・主任も対応している。相談窓口は懇談会で説明するほか、玄関と送迎時に付きやすいテラス側にも掲示しており、相談室も確保している。  
 35) 相談や意見は常に園長・副園長・主任に報告し、職員間で共有している。アンケートは実施していないが、行事ごとに連絡帳に感想や意見が書かれていることが多く、取り組みに活かしている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	a
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	b	a

[自由記述欄]

36) 小さなことでもヒヤリハット報告するようにしており、予防のための対応策を話し合い、振り返りをしている。市役所等関係機関からメールで送られてきた分析された内容を含む事例は職員会議で共有している。  
 37) 感染症対策マニュアルがあり、職員会議などで個々の対応の見直しを行っている。園長・副園長・主任が主に担当し、流行している感染症の情報を調べ職員に周知している。保護者へはクラスごとの掲示板を使いその時々情報を知らせている。  
 38) 毎月避難訓練を行い、消防署の立ち会いは年に1回ある。災害発生時の職員の対応は周知できている。食品や水、バッテリー等の備蓄をしている。警察と協力しての交通事故防止など、様々な取り組みもしている。  
 39) 不審者の侵入時についても災害時同様に計画を立て、マニュアル化している。警察官に「さすまた」の使い方の指導を受けた。園庭の出入り口は自動でロックがかかり、暗証番号を入力して解錠する仕組みになっている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	a
		41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a
	Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a	a
		43	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a	a
	Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	a
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	a

[自由記述欄]

40) 保育マニュアル、保育課程、指導計画をもとに保育を行い、保育ソフトを使って記録をしている。保育に関する研修は保育協会のものに参加したり園独自でも企画し学ぶ機会を作っている。ドキュメンテーション会議で標準的な実施方法について振り返りを行っている。  
 41) 保育の内容については毎月リーダー会議で振り返り検証を行っている。クラス担当で話し合うことも日常的にできており、保護者等から送迎時に聞き取ったことや連絡帳に記載されていたことも含め見直しの機会としている。  
 42) 児童票（アセスメントシート）をもとに、様々な職種の関係職員と協議し、指導計画を作成している。個別の具体的なニーズは保護者からの希望を参考にしている。指導計画は各クラスリーダーが管理し、リーダー会議で検証している。  
 43) 常に指導計画を改善させるため、評価、見直しをしており、クラス内で共有している。課題等はドキュメンテーション会議で明確にしている。  
 44) 日誌やケース記録はICT化した保育ソフトを活用している。ソフトのマニュアルに沿って入力し、記録はリーダー会議、職員会議で共有している。  
 45) 個人情報管理規程が定められており、文書は適切に管理されている。個人情報保護については入園後の説明会で保護者に説明し同意を得ている。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(1) 全体的な計画の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している。	a	a
		47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	a
	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	a
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a

[自由記述欄]

46) 法人理念、保育理念、保育方針に基づく保育過程が編成、実行されている。保育に関わる全職員の参画により実施される職員会議で協議され、次年度の計画に活かされている。  
 47) 室内はどこも清潔に保たれていた。また、エアコン、床暖房等により極端な温度変化がないよう配慮されている。コロナ禍以降は、室内の清掃、消毒を徹底しており、クラスター感染を防止している。「保育環境リーダー」を設置し、四季を通して自然を生かした取り組みが実施され、子どもが生き生きと過ごすための工夫がある。  
 48) 「受容」についての職員研修を実施するとともに、日々の子どもの観察や保護者との送迎時の情報共有等で、個々に応じた指導計画が作成され、実施されている。言葉遣いについても重々注意をして保育を行っている。  
 49) 子どもの発達段階に合わせて、子ども自身が生活習慣を身に着けることの大切さについて理解できるよう、異年齢保育でお手本を見せたり、特にアレルギーに関しては自ら危機管理（自分で自分の身を守る）ができるよう働きかけている。保護者には毎月の「みどり保育園 えんだより」で周知している。  
 50) 「太陽と土と豊かな心」をテーマに恵まれた園庭があり、「保育環境リーダー」主導での豊かな保育が展開されている。乳児クラスの保育室も広々としており安心安全な環境であった。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	51	⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		52	⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a

[自由記述欄]

51) 入園時には十分な慣らし保育期間があり、親子の安心につながっている。保育室は木造建築で温かみがあり、温度や湿度の調節もしっかりと管理されていた。ゆったりとした空間で睡眠時間の確保が出来るように環境整備している。

52) 家庭訪問や個別懇談、年齢別懇談会等で家庭との連携を行い、子ども自身が安心して遊び、育まれるよう関わっている。自然と親しめる工夫や遊具・玩具も充実している。

53) 質の高い保育を個々の発達状況に合わせて提供するために、愛着や人権に関する園内研修を積極的に行っている。また、家庭訪問を毎年行い、家庭との信頼関係づくり、教育・保育の質向上に努めている。

54) 保健センターや療育機関との連携により、障害のある子の特性に合わせた配慮を行っている。自閉症、多動性障害など障がいの特性に応じ、それぞれに配慮した安心できる空間作りにも取り組んでいる。

55) 長時間保育の子どもには、情緒面に配慮して、不安にならないよう関わり方を変えている。子どもの生活の連続性に配慮して引き継ぎノートを活用し、ゆっくりと過ごせる環境や、保護者との連携に配慮している。

56) 福知山市には、就学前スクリーニングのシステムがあり、気になる子どもがいた場合、通学区域の学校の学年主任が園訪問をしてくれる。園から様子を伝えることでスムーズな就学につながっている。また、支援が必要な園児には、支援シートを作成し、各学校へ情報提供している。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	a
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	a
	A-1-(4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

[自由記述欄]

57) 家庭との連絡や日常的な子どもの様子観察で子どもの健康管理には気を配っている。毎日の検温、帰園時の手洗いなどを欠かさず実施している。保健に関する計画は年間行事計画に載せて計画的に実施している。家庭での様子を登園時に保護者から聞き取ったり、保護者には季節ごとの留意点を掲示板や口頭で知らせている。

58) 健康診断・歯科検診の日程は、年間行事計画や毎月のお便りで保護者に周知している。保育の中では毎日うがい歯磨きを行い、給食を通して食による健康の指導をしている。健診の結果は職員間で共有するとともに保護者にも伝えている。

59) アレルギーに関しては、年1回医師の診断書の提出をお願いしている。給食提供時では、アレルギー児専用の食器に盛り付けを行い、栄養士・保育士双方確認のもと、配膳している。緊急時の対応マニュアルがあり、職員にも研修で周知している。保護者へは、懇談会の時にアレルギー対応について都度周知している。

60) 保育園に菜園があり、野菜作りを通じて、子どもたちが食について関心が持てるよう取り組んでいる。「収穫祭」には、「みどり保育園 えんだより」で保護者にも呼びかけ、親子で調理をしたり、大なべを囲んで楽しく食事をする機会がある。

61) 畑での野菜作りなどを通じ、旬の食材を意識した献立にしている。食材によっては0・1歳児クラスだけ食べやすいよう別メニューにすることもできる。調理員、栄養士が給食の様子を見学したり、残食の記録を基に調理法を工夫している。地域の食文化を大切に行事食に組み込むなどしている。

## A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	A-2-(2) 保護者の支援	63	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	a
	A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	a

[自由記述欄]

62) 登降園時の保護者とのやり取りで家庭と園の様子をお互いに伝え合う他、0歳児から年長児まで連絡帳があり活用している。行事等での親子の関わり方も注意深く見ており、気になる行動があったときは職員会議で話し合い、対応を職員間で確認している。

63) 保護者からの相談内容や保育に係る家庭事情の変化は、都度内容を記録し、速やかに園長に報告するほか、職員会議によって情報共有し、日ごろから報連相を徹底している。

64) 虐待通報マニュアルがあり、これに基づく職員研修を実施している。通告連絡先は職員室の壁面に掲示されており、職員間で共通認識ができていいる。事例によっては市役所などの関係機関へ早めに相談等を行い、防止のための対策を講じている。

65) すべてのクラスが複数担任制になっているため、保育実践についての振り返りが、客観的かつ自己評価として日々実施されている。クラス内だけでなく、園長や、先輩保育士に相談することで、意識の改革、保育の質の向上、専門性を身に付けることに役立っている。